



富山赤十字病院 健診部



かがやき

第16号

第16号は乳がん検診について特集です。

国立がんセンター全国がん罹患モニタリング集計（平成26年）によると、女性で最も多いがんは乳がんであり、次いで大腸（結腸及び直腸）、胃、肺、膵臓の順となっています。しかし、富山県の乳がん検診受診率※は、17.5%で、8割以上の方が受ける機会を逃している残念な結果となっています。がんは早期発見・治療により完治する可能性が高くなります。乳がん検診は女性の方に是非、積極的に受けていただきたい検査です。

※平成29年度の厚生労働省統計で対象者は40歳から69歳のすべての女性



人間ドック・健診施設機能評価
認定施設 認定第178号

乳がんについて知りましょう！

総合内科部副部長 柴田 祥宏

乳がんについて

日本において、乳がんは全がんのなかで発症数ならびに死亡数が上位です。乳がんの症状は、しこり、乳房のひきつれがあります。しかし早期乳がんはほとんど自覚症状がありません。進行がんになる前にできるだけ、がんを発見する必要があります。

乳がん検診について

乳がん死亡率を減少させることが科学的に証明されている検査は「マンモグラフィ」です。厚生労働省は40歳以上の女性に対し、2年に一度のマンモグラフィ検査を推奨しています。2015年東北大学を中心とする研究で、40代女性がマンモグラフィに乳房超音波を加えることで早期乳がんの発見率が約1.5倍になる結果となり、今後死亡率の低下を証明できれば、若い女性の検診に推奨される可能性があります。

検診後に「異常あり」の結果であった場合は、精密検査を受けましょう。その後の検査方法は再度マンモグラフィの多方向から撮影、乳房超音波検査、疑わしい病変へ針生検をおこない、乳がんを確定し、治療へと移行します。



ピンクリボンは、正しい知識を広め、早期発見の重要性を呼びかける世界共通のシンボルマークです

乳がんは早期発見により適切な治療が行われれば、良好な経過が期待できます。無症状でも、検診により乳がんが見つかることがあります。みなさん検診を受けましょう。

乳がんの早期発見のために

保健師 斉藤 沙也

検診で行える検査

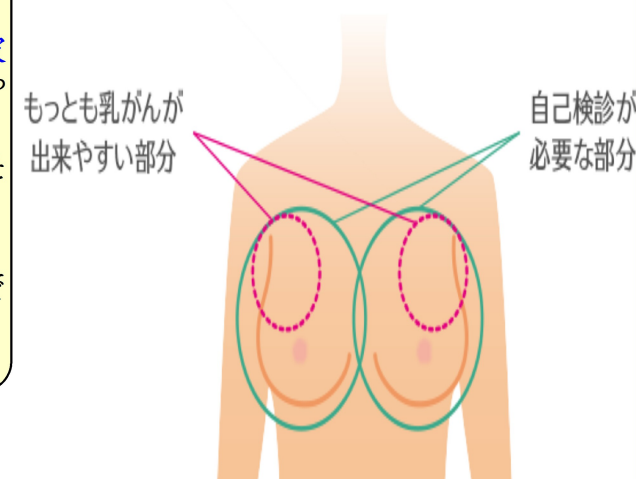
① マンモグラフィ検査

マンモグラフィ検査は、乳房のX線撮影のことで、乳房撮影専用X線装置を用いて乳房を圧迫し、乳房内の組織の差を写し出す画像検査です。マンモグラフィでは、「しこり」や「石灰化」のように触れることの出来ない小さな病変を写し出すことが出来るため、早期乳がんや乳がん以外の病変を見つけ出すことに非常に有効です。その反面、しこりも乳腺と同様に白く映し出されるため、小さなしこりと正常な乳腺との区別が難しいという弱点があります。

② 乳房超音波検査

超音波検査は、人体に悪影響のない超音波を乳房にあて、その反射波からしこりの形や内部構造を画像化する検査です。乳腺は白く、多くの乳がんは黒く描出されるため、マンモグラフィでは診断しにくい高濃度乳腺でもしこりを発見しやすいという利点があります。その反面、治療の必要のない良性の病変まで拾い上げてしまうという課題もあります。

乳がんが出来るやすい場所



自己検診の方法

① 目で見てチェック

鏡に向かって、乳房の大きさや形に左右差がないかをチェックします。皮膚に不自然なひきつれがないかも確認しましょう。

② 触ってチェック

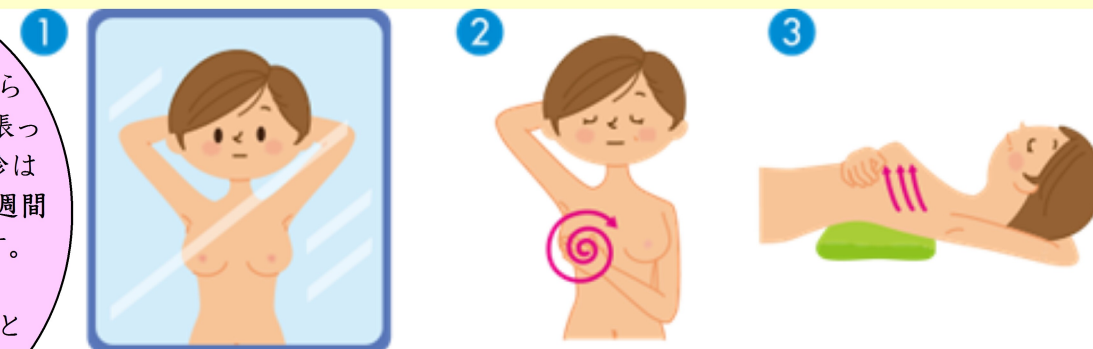
うずを描くように手を動かしながら、しこりがないかをチェックします。指の腹で乳房を適度に圧迫し、ゆっくりとなでます。乳頭をつまみ、軽く搾るようにして、分泌物が出ないかをチェックします。

③ 寝ながらチェック

あお向けに寝て、外側から内側へ向かって指を滑らせ、しこりがないかをチェックします。

ポイント

閉経前の方は排卵から月経終了までは乳房が張っているため、自己検診は月経が終わってから1週間くらいに行います。閉経後の方は毎月、日にちを決めて行うと良いでしょう。



参考：国立がんセンターHP 乳がんインフォナビ

☆ 次号は「目」に関する特集です ☆